

研究の成果と課題<専門性チェックリストの結果より>

本校では研修等で学んだことが身につけているかを確認するために教師向けの「専門性チェックリスト」を作成し、学校全体の授業改善に向けての課題の整理に活用できるようにしている。実態把握から指導目標・内容の設定、授業実践、評価等、授業づくりの一連の流れにおける26項目について、各教師が学期末に5段階で自己評価を行っている。ここでは、このチェックリストの集計結果から、研究の成果と課題を分析する。

<5段階評価について>

- 5：他の教師に教えることができる程度の知識・技術があり、日々の授業に効果的に生かすことができる。
- 4：知識・技術があり、日々の授業に効果的に生かしている。
- 3：普段の授業実践で困らない程度の知識・技術がある。
- 2：知識・技術不足で困ることがある。
- 1：まったくわからない

各教科と自立活動の指導目標・指導内容の設定について<平成30年度の結果より>



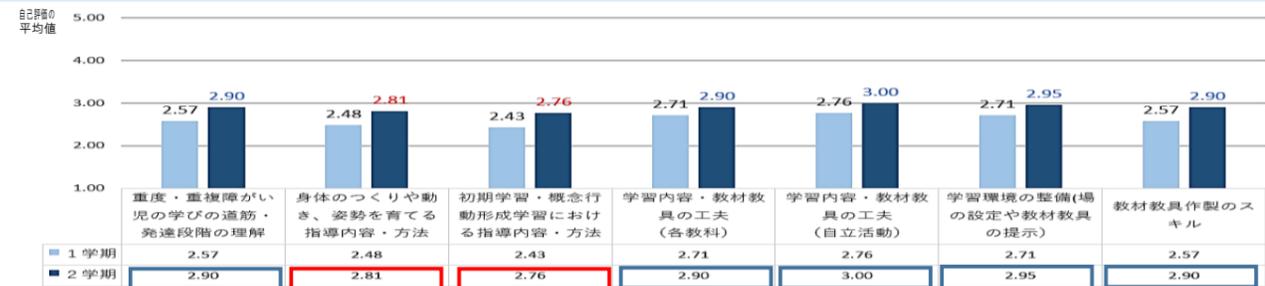
<成果> 「指導目標・内容設定の手続き」、「めざす姿と年間・学期目標とのつながり」

学びの履歴チェックや学習内容一覧表、自立活動目標設定シート等のツールの作成や個別の指導計画の作成時期に合わせて各ツールを活用する環境を整えたことで授業を組立てるための基盤をつくることができた。

<課題> 「各教科の系統性を意識した授業計画」「自立活動と各教科内容の関連」

各教科の初期段階(1段階程度)にある児童生徒が多いため、各教科の系統性や自立活動との関連について基本的な理論は理解していても、実際の場面では整理がしづらいと感じている教師が多い。それぞれの関連の考え方を共有したり、次のステップに進む授業のアイデアを出し合ったりなど、チームでの授業づくりを工夫していく必要がある。

授業実践力の向上について<令和元年度(2019年度)の結果より>



<成果> 「学びの道筋、発達段階の理解」、「教材教具の工夫・作成のスキル」「学習環境の整備」

グループでの苓北アタック20や授業見学を通して、教材教具や学習環境等について具体的な解決策を出し合いながら、授業改善に取り組むことができた。また、スーパーティーチャーによる指導助言や講話を通して授業実践に必要な知識・技能を学ぶことができた。県内外の特別支援学校や近隣の小・中・高等学校の研修等への参加を全職員が行ったことも、新たな視点で授業づくりに取り組むきっかけとなった。

<課題> 「身体づくりや動き・姿勢を育てる指導」「初期学習・概念行動形成学習における指導」

姿勢の保持や身体の動き、初期学習等の学習の具体的な方法等についてはまだ十分に理解できていないと感じている教師が多い。外部専門家の活用等、専門的な知識・技能を身に付けるための取組を更に充実させていく必要がある。

研究のまとめ ~2年間の研究を振り返って~

本研究に取り組むきっかけは2年前の国語、算数/数学の指導の導入であった。現在、国語、算数/数学の指導については、それぞれの教師が児童生徒の実態に応じて学習内容、教材の工夫等をしながら授業に取り組み、個に応じた各教科の指導の基盤はできつつある。しかし、各ツールの活用や授業研究の進め方等、本校の各教科と自立活動の授業の充実に向けた取組はまだ始まったばかりであり、継続して活用していくために、これから内容や方法を適宜整えていく必要がある。

本研究に取り組む中で、複数の目で見ることによって新たに視座やアイデアも多くあり、チームで授業をつくる体制づくりが大切であることに改めて気付くことができた。本校は職員数が少なく、若い集団ではあるものの、この、チーム力が本校の強みではないかと考える。今後も「チーム苓北」一丸となり、各教科と自立活動の授業の充実に向け、取り組んでいきたい。

「重度・重複障がい教育における各教科と自立活動の授業の充実をめざして」



学校教育目標

個々の可能性を伸ばし、自立と豊かな生活につながる教育を行う

めざす児童生徒の姿

つよく
自分らしさを発揮する姿

なかよく
生き生きと活動する姿

あかるく
関わり合いを楽しむ姿

< 研究概要 >

本校では、平成30年度からこれまで自立活動中心であった教育課程を見直し、国語、算数/数学の時間を設定し、教科別の指導を実施している。各教科の授業の実施にあたって、どのように授業を組立てればよいか、自立活動との関連をどのように考えていけばよいか等様々な課題が生じた。また、自立活動についても、経験の少なさから実態把握や目標の設定等、授業の組立て方や授業実践について悩みを抱えている職員も少なくなかった。

そこで、この2年間の研究では、「重度・重複障がい教育における各教科と自立活動の授業の充実をめざして」をテーマに掲げ、指導目標・内容の設定、授業実践力の向上の2つの視点から職員の専門性向上を図る取組を行った。

